

# 岩手郡内3町が連携し情報発信

# 持続可能なまちづくりへ決意新たに

「消滅してたまるか自治体サミット2015」は2月13日、森のこだま館で初開催されました。このサミットは、人口減少で多くの市町村が消滅する可能性があるとの予測がある中、森や里の恵み、食料やエネルギー自給など地方の魅力を都市部に発信しようとする葛巻町、栗石町、岩手町の岩手郡3町と盛岡広域振興局が主催しました。



広報くずまき・平成27年3月1日〔2〕



1 3町のU・Iターン者が町への思いを語った意見交換会 2 リレートークで熱く語る鈴木重男町長、3 栗石町の深谷政光町長、4 岩手町の民部田幾夫町長 5 県立大の中村慶久学長による基調講演

# 3町のU・Iターン者がそれぞれの町への思いを熱く語る



葛巻町  
新妻 浩三さん(61)  
＝英語塾経営＝

故郷を離れ横浜市で約30年生活してきたが、古里の田園風景が心を離れず、50歳になったときに第二の古里を探すことを決心。移住施策が充実している葛巻町に移住することを決めた。町のホームページの土地情報を参考に連絡を取ると、町の担当者が不動産屋みたいにあちこち紹介してくれた。住民が本当に親切。現在は、偉い先輩方に続く若者を育てる手助けをしたいと思っ子どもたちに英語を教えている。私のような田舎志向の人間は必ずいるので、ありとあらゆる方法で発信することが必要だ。

福島県いわき市出身。神奈川県で英語塾を経営。50歳を機に田舎暮らしを求めて旧山形村を訪問。おもてなしや自然の素晴らしさに感動しUターンを決意。県内の数カ所を移住先を探し、昨年7月、支援体制がしっかり整備されていた本町（小田地区）に新居を構え移住した。現在は、町内の子どもたちに英語を教えながら、まきストーブのある家で暮らす。



栗石町  
桜田 文昭さん(41)  
＝住工房森の音 代表取締役＝

岩手には多種多様な木材がある。5年前から地域の木材での家づくりを本格的に始動し、「衣食住」の暮らしの提案で地域ナンバーワンを目指している。人と地域の恵みの組み合わせで地域貢献したい。今春から社会人1年生の大工を採用して技術継承にも取り組んでいく。栗石に戻ってきたい若い人たちが、ここでなければできない、ここで頑張りたいと思える町を築き上げていきたい。企業が経済合理性だけを求めるのではなく、社会性や地域性と絡めて取り組む、利益を地域に返していけば面白いと思う。

栗石町出身。関東のゼネコンや設計事務所などに勤務後、岩手に戻り息子が設計、父が建築する兼業工務店をスタートさせた。先代の他界を機に事業縮小を考えたが、大工たちの後押しで「住工房 森の音」として再出発。こだわりは、県産材を使用し、長く安心して住める木造住宅をつくること。今春からは初めて若手大工を雇用し技術継承にも力を入れる。



岩手町  
小沢 みさきさん(29)  
＝東北銀行沼宮内支店勤務＝

夢をかなえさせてくれた町に恩返しをしたいと思っ帰ってきた。同世代は帰りたいけど、仕事がなく帰れないという声が多い。さみしいし、もったいない。地元に戻りたい本人の情報収集する努力と自治体からの情報発信が必要だ。田舎は地域のつながりが強い方がいいところで、ここで子育てがしたい。子どもたちには自分が見てきた世界を伝えることや、東京オリンピックを目指す、舞台上立てるチャンスがある世代なのだと思っ伝えたい。世界に触れるチャンスをつくる手伝いができたら恩返しになる。

岩手町出身。沼宮内高校から富士大学に進み、平成20年に女子ホッケー日本代表として北京オリンピックに出場した。翌年からグラクソ・スミスクラインホッケー部に所属。「自然豊かで家族もいる故郷へ帰りたい」との思いから平成25年に帰郷。県教育委員会で務めた後、平成26年4月から東北銀行沼宮内支店に勤務。現在は、選手として地元の高校生と一緒に練習を続ける傍ら、指導にも当たる。

民間の有識者などで行く日本創成会議（座長 増田寛也前知事）が昨年5月に発表した独自の人口推計では、現在のペースで地方から人口流出が進めば、20代から30代の女性が25年後の2040年までに大幅に減少し、全国の自治体の約半数が将来消滅する可能性があるとして葛巻町、栗石町、岩手町の3町も含まれています。

この日のサミットには関係者ら約150人が参加。自然豊かな地方の暮らしの価値を見つめ直し、持続可能なまちづくりにつなげる決意を新たにしました。

第一部では、岩手県立大学の村慶久学長が「岩手は負けない、県立大学の使命」と題して基調講演。中村学長は「食や住まい、自然エネルギー、癒しの場、人材の宝庫である岩手は絶対に負けない」と語り、

「だが、右往左往することなく着実に分析し、未来に向かい新たな手だてを講じることが大切。日本の目指すべき姿は離都向村だ」と強調しました。

続いての意見交換会では、横浜市から本町に移住し英語塾を営む新妻浩三さん、栗石町で地場産材を活用した家づくりを行う「住工房森の音」代表取締役の桜田文昭さん、岩手町出身で北京オリンピック女子ホッケー日本代表の小沢みさきさんの3人がゲストスピーカー、県立大の中村学長がコメンテーター、岩手日報社編集局報道部の金野記子記者がコーディネーターとして、地域の魅力や将来展望などを語り合いました。

最後に、各町長が「消滅してたまるか」と決意を表明。3町が連携しながら情報発信していくことや持続可能なまちづくりを進展させていくことなどが力強く宣言されました。

第2回サミットは来年同時期に、栗石町で開催される予定です。

岩手町の民部田幾夫町長は「地方消滅が急に叫ばれるようになってい。今後、これらをしつかり活用していく知恵と行動力が必要。優秀な人材を地元に残すことにも力を入れてほしい」と述べました。

第二部は3町長がリレートークで人口減少対策や町の強み、魅力について熱く語りました。

鈴木重男町長は「町では土地提供者の登録制度や定住奨励金、定住住宅の整備などさまざまな取り組みをしている。国も促進策を進めてほしい。先人のまちづくりに懸ける熱い思いを次の時代にしっかりとつないでいきたい」と力を込めました。

栗石町の深谷政光町長は「郷土の美しさや豊かさ、歴史や文化を継承し、町を消滅させない」と決意を語りました。